本を選ぶ

高校図書館版

NO.45 2008年(平成20年) 5月10日
http://www.las2005.com

●発行／ライブラリー・アド・サービス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL=03-3235-6168

ろん・ぽわん

幻の朱い実

石井桃子さんが、1994年に87歳で刊行した『幻の朱い実』（岩波書店）は東京の荻窪を舞台にした長編小説で、読売文学賞を受賞しました。作家の大江健三郎さんは、朝日新聞の94年3月28日の文芸時評で、「知的女性像」というタイトルでこれを評し、「昭和初年から大戦にいたる激動期についての、（略）懐かしい生活感情もあれば、時代の動きもゆるやかに反映している、知的な女性像」が描かれているとして、若い母親に「この長編の女性像に自分をかさねてみることを心からすすめたい」と言っています。私は発売直後手にして読み始めました。ところが、蕗子と明子の青春と心の交流が、高校時代の親友と私との関係と重なり、親友が荻窪に住んでいたこと、若くして亡くなったことなど物語の進行と似ていることもあって、つらくて最後まで読み進むことができませんでした。

このたび『幻の朱い実』をあらためて読み返しました。亡き友とのこまごまとした思い出が蘇りましたが、蕗子と明子の若き二人の女性の心の交流が、食事の場面で熱いビフテキを頬ばる様子や、房総の潮騒の音が聞こえてくるような描写などの一つ一つの細部の情景が浮かび上がり、紡がれている物語全体をも受け止めることができました。標題の幻の朱い実は、カラスウリのことです。作中、蕗子は、家主にカラスウリははびこるから、とりなさいと言われます。私の家でも義母は、カラスウリを見つけると抜いてしまうので、私は、まだ、そのまっかな実も、レースのように美しいといわれる花も、見たことがありません。

去る4月2日、石井桃子さんがお亡くなりになりました。石井さんが、ほぼ一世紀にわたる生涯を通じて、児童文学の翻訳・編集・創作等にとどまらず、児童図書館活動の分野で素晴らしい業績を残されたことは申し上げるまでもありません。

近所の子どもたちのために自宅で開いていたかつら文庫の7年間の記録を纏めた『子どもの図書館』（岩波書店）のまえがきで、石井さんは、「コンピューターや宇宙時代の子どもは、幼いうちは、形や絵で物ごとの実体をはっきりつかみ、物の考え方の基礎をかためながら、どんどん文字の世界にはいっていくことが、ぜひ必要なのだと、私には思えます。」「一つは、そこから得た自分の考え方、感じ方によって、将来、複雑な社会でりっぱに生きてゆかれるようになること、それからもう一つは、育ってゆくそれぞれの段階で、心の中で、その年齢で一ばんよく享受できる、たのしい世界を経験しながら大きくなってゆかれることです。」と記しておられます。

「本は一生の友」であることを、「一生の友となった本に出会ったこと」の幸せを、石井さんが世に送り出した本を通じて、どれだけ多くの人が実感しているか、とてもはかりしることができません。石井桃子さんの存在の大きさに頭を垂れて、ご冥福を心よりお祈りする次第です。

（松崎恭子：大学講師）

優れものと評判の高い LibraryNAVI —続—

—使い方は、限りなく多様—

松田 ユリ子

さて、LibraryNAVI（以下LN）は、まったく新しいメディアなので、「メディア・リテラシーを育むツール」という我々開発者の意図を超えた使われ方が広まったら、それは本望というものです。とりあえず、これまでLN研究会として把握している事例を俯瞰してみて、LNをどのような場面で使うと効果的かについて、シーンごとにお伝えしようと思います。

1）生徒：「何それ？○○って何？」「司書さん、○○ってどうすればいいの？」

このような質問が来たら、あるいは、このようなことを聞きたいそぶりが見えたら、館内のすぐ手に取れる場所に常備してある当該テーマのLNをさっと取り出し、一緒に眺めながら解説します。一通り解説したら、「ね、これ便利でしょ？あげるよ」と渡します。これの押し付けがましくないやり方は、館内の要所要所にLNを「ご自由にどうぞ」と置いておくというものです。「プレゼンテーション」LN・「面接の心得」LN・「秘書のお仕事」LN・「さぬきうどん」LN・「ウィキペディア」LN…すべてのLNはこのように使えます。文化祭が近くなったら、「お化け屋敷をつくる」LNや「映像作品をつくる」LNなどを、修学旅行の内容が決まったら、「修学旅行」LNや「飛行機に乗る」LNなどを作っておくとよいでしょう。

2）新入生図書館ガイダンス

最もポピュラーなのは、「利用案内」LNを毎年最新版にアップデートして使う方法です。これに、例えば「ラベルの秘密」LNを、分類について話す時に合わせて使うとさらに効果的です。「○年度ベストリーダー」LNもいいですね。中でもおすすめは、ガイダンスを担当している司書自身を紹介するLN。「司書」とは何かを説明出来るだけでなく、自己紹介も兼ねます。これまで多くの「ご当地司書」LNが作られています。

LNは、何種類か組み合わせることによって、ガイダンスで伝えたいことを際立たせることが出来ます。私の場合は、「学校図書館トリビア」・「司書」・「図書館利用案内○年度」・「What is『LibraryNAVI』??」の4種類のLNを全員に配って、これに沿って説明するパターンが多いです。新入生全員に、「自己PR」LNを作ってもらうガイダンスもあります。5項目を、「こんな人」「なりたい動物」「最近うれしかったこと」「人生最大の危機」「理想の図書館」にあらかじめ設定し、表紙には「にがおえ」を描き込めるような、ワークシート型LNを使った作業を取り入れています。この「自己PR」LNは、いろいろな場面でのアイスブレイクに効果がありそうです。

3）教師：「今度の授業で○○について調べさせたいんだけど」

授業の中で、調べ方についてガイダンスするときもLNは便利です。例えば、「いのち」についての新聞記事を3つ選び、それぞれの記事に感想をつけ、3つの記事を関連させて1つのレポートを書くという授業。導入で司書が、「縮刷版とは」LNを使って縮刷版の使い方を説明しています。他にも、「新聞というメディア」LNや「百科事典どうつかう？」LN、「インターネットどうやって調べるの？」LN、「テーマを決める」LN、「How to do a good presentation?」LNなどが、このような場面で使われています。

パスファインダー的にLNを使うことはよくあります。家庭科「食の安全をおびやかすもの」では、2年生4クラスに出されたレポート課題のために資料を別置し、さらに自力で資料を探すための「食の安全性について」LNを用意しました。国語科の夏季講座では、「小論文を書く人のための図書館案内」LNを作成し、教師が講座の中で配布しました。このLNはその後図書館に常置されるようになり、他の国語科教師の反応も良いそうです。調べるときインターネットだけで済まそうとする現状を打破するために、教員用に「図書館の本で国を調べる」LN

を作った司書もいます。

4）校務分掌会議で：パンフの係りになったら

芸術鑑賞会の係りでパンフレットを作ることになったら、LN で作ることをおすすめします。昨年度、全校生徒分の「芸術鑑賞会 2007」LN を作りました。芸術鑑賞委員の中のパンフ係が原稿を作り、委員全員で折りました。プログラムと会場アクセスと集合場所などを載せ、自分の座席番号を書き込めるようにしました。制服のポケットに入れて持ち運べるので好評でした。

5）生徒：「総合の発表会どうしよう？」

食品科学科の生徒が、研究テーマの「柏餅」と「小麦粉まんじゅう」のプレゼン資料として LN を作りました。最初生徒は小さな本の形で資料見本を作っていましたが、「これじゃみんなに見えないよね？司書どう思う？」とアドヴァイスを求められたのがきっかけです。その発表を見るのは 40 人と聞いて、人数分の LN2 種を色違いで作ることを提案し、その気にさせました。

6）教師：「何これ？授業で使えそう！」

司書が愉しそうに作っているのを見て、LN に興味を持つ教師が出始めました。数学科で、「冬期中間試験対策カンペナビを作ろう！」という授業が行われました。クラス生徒全員に「数学　2 次方程式の解き方」LN を作らせ、テストの得点アップを狙うというユニークなコラボです。国語科でも、生徒がテーマから自分で考えて LN を作る 3 クラス分の授業が行われました。「オートバイ 4 大メーカー」LN、「海上自衛隊横須賀基地」LN など、まさしく十人十色のマニアックなテーマが出てきて面白いです。

7）名刺を作る：「実は私こういうものです。」

いつも持ち歩いて、出会った人に渡すのもおすすめですが、打ち解けにくい集団のアイスブレイクとして「名刺」LN 交換会を仕組むという方法が有効です。何しろ表紙も入れると 7 頁分も書くスペースがある。どう自分を切り取って見せるかに人柄が表れるので、それを使って自己紹介し合うと、話が弾むこと請け合いです。

さまざまなシーンごとに LN の使い方を提案してきましたが、どれも実際に司書が実践してきたことです。どの場面で使うか考えながら、テーマとする対象を意識化し、自分なりの切り取り方で表現するためのメディア、それが LN なのです。

最後に、別の側面から LN をご紹介します。

LN 研究会では、2007 年 3 月に「LibraryNAVI」の商標登録申請を行い、2007 年 12 月 21 日晴れて商標登録が成りました。申請してみようと考えたのは、ひとつには、この名前で第 3 者が商業的な活動を行うことを阻止したかったからです。さらにもうひとつ理由があって、著作権という概念そのものについて身をもって考えるきっかけにしたかったのです。元々、現場のニーズに合った、アップデートが簡単なガイドブックを作れないかというところから出発した LN は、コピーレフトの精神に則り、他者の LN 作品の利用・改変・再配布をフリーにしています。同じテーマの LN でも、使い手の環境に合わせて手直しして使いたいということは良くあるからです。めんどうな許諾無しに自由に素材を使うことによって、面白い LN が沢山生まれることに価値があると思いました。コンテンツ著作権フリーだからこそ、メディアの正式名称「LibraryNAVI」が重要なのです。

そうした LN のあり方に合わせて、商標登録についてもプロジェクトを立ち上げ、1 口 1,000 円でこの企画への賛同者を募り、「みんなの LibraryNAVI」にすることにしました。口コミによる呼びかけだけで、プロジェクト賛同者は神奈川県内だけでなく全国に広がり、大学図書館員、教職員、書店員、会社員とさまざまな方々が 42 人も参加して下さいました。誰にも何の金銭的利益を還元しないプロジェクトに、「おもしろそう」と言って参加して下さった方々みんなでこれを完遂させたと思うと、実に楽しい気分です。有効期間は 10 年間です。LN 研究会員の中には、2017 年の再登録を目指した新たなプロジェクトを提案する長期展望型の頼もしい方々もいて、今後の活動がとても楽しみです。

LN 研究会は、LN を作ったその日からあなたも会員です。何の手続きもいりません。詳しくは「ライブラリーナビ･アーカイブ」をご覧下さい。

http://librarynavi.seesaa.net/

（まつだゆりこ：神奈川県立相原高校司書）

—生徒と一緒に「情報」の授業を受けて
図書館のHPを立ち上げました

木下　通子

春はウキウキ

みなさんの学校ではオリエンテーションは終わりましたか？　うちの学校は２学期制６５分授業の学校なので、授業がＡ週Ｂ週と分かれます。図書館オリエンテーションは「情報」の時間をもらってやっているので、今年のオリエンテーションは第４週に集中してしまいました。入学式は第２週。だいぶ間が開いてしまいます。

そこで、例年はオリエンテーションの時に配っていた利用者カードを、担任の先生を通して事前に配ってもらいました。

そうしたら、配った日から生徒が図書館に来るわ来るわ。文系で女の子が三分の二というクラスは、女の子の半分以上がオリエンテーション前に本を借りにきてくれるという珍事が起こりました。だから、オリエンテーションもノリノリ。図書館の使い方の説明をして、分類ごとに本を紹介するブックトークをして、最後に笑える絵本を読んだら大うけでした。

ここ２～３年、貸出が低調で落ち込んでいたので、今年はなんとか巻き返そうと思っているのですが、幸先いいスタートを切ることができてうれしいです。

ホームページを立ち上げる

「情報」の授業と連携していた話は、本誌№43で書きました。その連携は、今もずっと続いています。去年の２学期以降は、二年生の情報で、旅行会社を経営しようという内容の授業が入り、生徒たちのプレゼンテーションをみるところまでいっしょにやらせてもらいました。

一年生はホームページ作り。実は、私も図書館のホームページを作りたいと思っていたので、ホームページビルダーの使い方を学ぶ授業に一緒に参加して勉強しました。そして、図書館のホームページを作ったんです。難しいことはできないので、ホームページは、シンプルに４つの項目にしました。図書館の利用案内、蔵書検索や開館情報をみるページ、本の検索サイトへ飛ぶページ、そして、司書の日記です。

図書館の利用案内には、開館時間、貸出日数＆冊数、予約の方法などを書きました。このページは、春日部東高校のホームページからもみることができます。

蔵書検索や開館情報は、「Lib Finder」という「Lib Max」の検索ソフトへリンクをはって飛べるようにしました。「Lib Max」にデータを入れると、「Lib Finder」にすぐ反映されるので、更新の手間がかかりません。これは、とても便利な機能でした。

本の検索サイトは、埼玉県立図書館、春日部市立図書館、紀伊国屋書店のホームページのアドレスをリンクしました。うちの学校の蔵書を検索して本が見つからない場合、リクエストをするときに書誌情報を確認してもらいたかったからです。

そして、「らいぶらりあん diary」という日記を書いています。この日記には、私が読んでおもしろかった本の紹介や、日々のできごと（もちろん、図書館のですよ！）、新聞記事の中で高校生にも知っておいてもらいたいトピックスなどを書いています。

生徒からの反響はあまりないのですが、先生方からはホームページについて声をかけてもらえるようになりました。今年は、学校のホームページの図書館のページを充実したいと思っています。

授業との連携が広がる

「情報」の授業と年間を通した関わりができたおかげで、図書館は本が並んでいるだけの場でないという意識が、先生方の中にも少し浸透してきました。

昨年の後半は、ロングホームルームの時間にブックトークを頼まれたり、朗読をさせてもらったりしました。そして、今年度は「情報」の授業のほかに、国語の「近代文学研究」、人文科の特設授業である「人文科研究」という授業と年間を通しての連携が始ま

りました。

国語の「近代文学研究」は、森鷗外、夏目漱石など近代の作家の作品を読んで、作品を理解してレポートをまとめるという、まるで大学の国文学科の授業のようなものです。近代をいくつかの時代に分けて、それぞれが好む作品を見つけるのですが、図書館では担当の先生と一緒に作品選びのサポートをしています。第一回は芥川龍之介の作品の中から何かを読む、そして、芥川龍之介についても調べるという課題だったので、芥川龍之介関連の本をブックトーク形式で何冊か紹介しました。

「人文科研究」は、一〜三年生の人文科2クラスに課された特別時間で、水曜日の6時間目に設定されています（普通科の生徒は5時間で放課後）。一年生は課題研究トレーニングという二年生がやることの縮小版。二年生では課題研究という自分で興味のあるテーマを一つ選び、それをまとめるという大学の卒業論文のようなことを1年かけて行うのですが、その授業の演習の中で、図書館が登場する場面が、カリキュラムの中に組み込まれました。たとえば、生徒が選んだ関心ある課題の中で図書館に本を探しにくる場合に、本の探し方の説明をしたり、テーマを決めるときに先生と一緒にアドバイスをしたりします。

二年生の人文科研究の授業では、昨年「情報」の時間に行った利用指導もやることになっています。参考文献の書き方、奥付の見方なども、司書の立場で解説したいと思っています。

書架移動

この3月は、蔵書点検にあわせて、大がかりな書架整理も行いました。うちの学校は、PTA費からいただく図書予算が潤沢で、年間2000冊弱の新刊を購入しています。毎年3月には、ギュウギュウになった本棚から本を抜いて書庫にしまうという作業をしているのですが、一昨年の蔵書整理の時から、書庫はもういっぱいになってしまいました。そこで、昨年度から書庫に可動式書架を入れてほしいと事務室に要求をだしていました。

予算をつけてもらえるかどうかわかるのは4月以降だったのですが、今年は思い切って開架書架から書庫へ移動する本を抜きました。その数、およそ2000冊。自分でもびっくりしました。

埼玉県の高校は、パソコンで蔵書管理をしている学校が多く、3年ほど前から埼玉県高等学校図書館研究会で各校の図書のISBNを集めて、目録を作るという作業を行っています。「ISBN総合目録」という名称で運用しているのですが、ISBNデータを出している学校は80校弱。県内県立高校の約半分です。その中の統計で単館所蔵を出したのですが、うちの学校は16.1%と、非常に高い単館所蔵率でした。文学関係の個人全集がそろっているというのが、単館所蔵率を引き上げているのだと私は思っているのですが…。

単館所蔵というのは、県内でその学校だけが持っているということで、ISBN検索の結果、他校から本が要求される場合もあるので、廃棄する場合も一応、ISBN目録をチェックしています。

3年ほど前に思い切った廃棄をしてしまったし、県内でうちの学校だけしかもっていない本もあるし、開架書架から書庫に運んだ本2000冊の行き場がありません。とりあえず、全集、シリーズものなど探しやすい本を段ボールに詰め、可動式書架設置に望みをかけることにしました。

可動式書架を扱っている2社に見積もりをとったところ、1社は今ある書架を撤去して、床にレールを引く工事をし、新規に8本の書架を入れるプランを持ってきました。そしてもう1社は、今、うちの学校で持っている書架4本をそのまま生かすプランを持ってきました。もちろん、そちらの方が値段も安く、工期も一日で据え付け完了ということだったので、そちらのプランを学校側に提示し、分掌として交渉を進めました。

そして、なんと、予算が通ったんです。善は急げで、今、話が急ピッチで進んでいます。早ければ夏前に書庫の大改造です。どんな風に作業を進めたか、また、ご報告しますね！

（きのした　みちこ：埼玉県立春日部東高校司書）

新入生と新転任者は熱いうちに打て！

—4 月の取り組みに勢いづけられた 11 年目—

宮崎 健太郎

この春、息子が保育園に通い始めました。これまで約 1 年半病気知らずだった反動か、入園早々ロタウイルスの先制パンチを皮切りに発熱やら咳やら中耳炎と戦う日々。息子の急な発熱に、私も急遽年休をもらい一日看病（といっても息子は熱があるだけで元気）する日もチラホラ。落ち着かない日々を過ごしています。

ポイントカードで裾野は広がった？

さて昨年、ポイントカードを導入したことについて書きました。貸出 1 回 1 ポイントで、5 ポイントたまるとパウチ加工した個人カード（ゴールドカード）を進呈。それだけの特典が一年生を中心に大ヒット、まさに「ポイントバブル」だったのです。4 月・5 月の 2 か月に、半数近い一年生が図書館で貸出を利用し、約 2 割の一年生がゴールドカードを手にしました。

そんな「ポイントバブル」はその後どうなったのか？ 「ポイントバブル」は 5 月 31 日を境にピタリと止みました。というのは、生徒の多くは生徒手帳にカードをしまい、それを冬服の胸ポケットに入れっぱなしだったのです。手元にカードがなくなると同時に、利用もガクッと落ち、利用は例年通り月を追うごとに右肩下がりなのでした。チャンチャン。

とはいえ、この貯金は思っていたより大きいようです。例えば一年生の教室が入っている廊下ですれ違っても、「誰だっけ？ ほらほら、えーと、図書館の先生だ」という生徒はあまりなく、本のことを聞いてくる生徒が増えました。一年生の年間図書館利用率は前の年度と比べて 15 ポイント増！ 学校生活に馴染む過程で、少しでも彼らの生活の中に図書館を意識づける重要性が身に染みます。

この春も、一年生は昨年同様の「ポイントバブル」に沸き返っています。今年は、衣替えに負けない秘策をなにか編み出さねば……。

先生方も熱いうちに打て ?!

新入生をポイントカードで熱いうちに打てたのと同様に、昨年度は新転任の先生方も熱いうちに打つことができたようです。着任以来減る一方だった授業利用が、昨年度は初めて増えました。しかも、増えた授業利用は新しく着任した先生による授業です。

ではその先生方になにをしたのか？ 実は、新転任者向けのオリエンテーション以外、特別に何かをしたわけではありません。ただ、職員向けの「図書館利用の手引き」を作成し、年度当初の職員会議（埼玉では「準備出勤」と呼んでいます）の際に全職員に配布したのが、新転任の先生の気持ちに響いたようなのです。

考えてみれば、既存の先生は一年目で既に現任校での授業のスタイルを作り上げています。二年目以降を狙っても、一度できたスタイルはなかなか変わりません。一方、新転任者は、これからまっさらなカンバスに絵を描くようなもの。「転勤してきた日に『利用の手引き』なんか渡されて、次の日にオリエンテーションでしょ。頼めばできるんだと思って」という、授業で図書館を使ってくれた新転任の先生の言葉が全てを語っています。

この職員向け「図書館利用の手引き」は、毎年養護教諭が発行している「学校保健の手引き」というパンフレットのマネです。個人としての図書館の使い方の他に、授業での使い方、担任としての先生方へのお願いなどを表紙・裏表紙含め全 8 ページにまとめたものです。

これまでも先生方向けに五月雨で通信を配布していましたが、図書館でできることを 1 冊にまとめて見せれば、より公式の当然のサービスとして映るだろうという効果を狙いました。

先生方にも好評でしたが、この手引きづくりを通して、司書自身が先生方にできることを振り返ることができたのが一番の成果かもしれません。この春のバージョンには「昨年度の授業利用の例」や利用統計も加えてみました。

というわけで、「熱いうちに打つ 1 年」だった昨年度。今年は「冷まさない 1 年」を目指していきたいところです。

（みやざき　けんたろう：埼玉県立新座高等学校）

国別地域別通史の決定版

世界各国史 日本史 第1巻

宮地正人編
四六判　定価3,885円

好評発売中



世界の実像に迫る好評シリーズ

世界史リブレット　第Ⅱ期　全36巻
A5変型　各巻765円　（3月末完結）
※セット受注承ります。セット価格27,540円（税込み）

世界史リブレット　第Ⅲ期　全36巻
A5変型　各巻765円　（4月末刊行開始）

〒101-0047　東京都千代田区内神田1-13-13
電話 03-3293-8131　http://www.yamakawa.co.jp/
山川出版社

発達と障害を考える本　全12巻



AB判各56頁　各1,890円
全12巻美装函入 22,680円

①自閉症のおともだち
②アスペルガー症候群［高機能自閉症］のおともだち
③LD（学習障害）のおともだち
④ADHD（注意欠陥多動性障害）のおともだち
⑤ダウン症のおともだち
⑥知的障害のおともだち
⑦身体障害のおともだち
⑧言語障害のおともだち
⑨聴覚障害のおともだち
⑩視覚障害のおともだち
⑪てんかんのおともだち
⑫発達って、障害ってなんだろう？

シリーズ累計30万部突破!!

ミネルヴァ書房　京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296　※価格税込

【愛蔵版】手塚治虫全集

■手塚治虫・著　■B5判　■各128ページ
■全10巻　■揃定価33,600円（揃本体32,000円）



今、蘇る往年の名作――。

ESTABLISHED IN 1919
金の星社　〒111-0056 東京都台東区小島1-4-3
TEL.03-3861-1861 http://www.kinnohoshi.co.jp

ジュニア英語名作ライブラリー 2008

英語版 世界一大きなワードブックセット
英語版 世界の名作絵本シリーズ
英語版 アイ・スパイ・ミッケ！シリーズ
英語版 日本の名作絵本シリーズ
英語版 がまくんとかえるくんセット
英語版 きかんしゃトーマスセット
英語版 レデーバードのジュニアライブラリーシリーズ

株式会社 三善　〒167-0032　東京都杉並区天沼2-2-3
TEL:03-3398-9163　FAX:03-3398-9170

哺乳類から植物まで全235種を収録する図鑑

決定版 日本の外来生物

多紀保彦　監修
（財）自然環境研究センター　編著
A5変型判／480頁　定価3,570円（税込）

幕末から明治を生きた奇想の天才絵師の全貌

別冊太陽 河鍋暁斎

安村敏信　監修
A4変型判／172頁　定価2,520円（税込）

平凡社　〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4
TEL 03-3818-0874　http://www.heibonsha.co.jp/

古典文学のヒロイン…
波乱に満ちた人生に女性の生き方をみる！

古典文学にみる

女性の生き方事典

西沢正史編　古典文学には、それぞれの時代に生きる、様々な人間像が多面的に描かれ、現代の読者に迫ってくる。本書は、文法や解釈ばかりにとらわれず、現代文学同様に、昔人の心の琴線に触れるように読み解くための手引きである。

菊判・上製カバー・464頁　定価5,040円

国書刊行会　〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427【税込価】

絶滅危惧動物百科
全10巻9月完結予定　定価各4830円

環境化学の事典
指宿・上路・御園生編　定価10290円

環境と健康の事典
牧野国義編著　定価14700円

からだの年齢事典
鈴木隆雄・衛藤　隆編　定価16800円

看護・介護・福祉の百科事典
糸川嘉則総編集　定価12600円

'08総合図書目録あります。ご請求下さい。

朝倉書店　東京都新宿区新小川町6-29　〒162-8707 ☎03-3260-7631

さまざまな地図を使って学ぶ日本地理の本

統計・資料で見る
日本地図の本



こどもくらぶ・編
①日本地図の本1 日本全土
②日本地図の本2 北海道・東北
③日本地図の本3 北関東・甲信越
④日本地図の本4 南関東
⑤日本地図の本5 北陸・東海
⑥日本地図の本6 近畿
⑦日本地図の本7 中国・四国
⑧日本地図の本8 九州・沖縄

【全8巻】A4変型判/52～60頁　ISBN978-4-265-10438-3
NDC 291　●揃定価26,880円(揃本体25,600円＋税)

岩崎書店　東京都文京区水道1-9-2 TEL.03-3812-9131
http://www.iwasakishoten.co.jp

限りなく広がる知識の世界
浮世絵大事典
膨大な浮世絵の情報を
一冊に簡便にまとめた
初の事典！



国際浮世絵学会編　江戸時代から近現代まで幅広く網羅し、最新の研究成果を盛り込み1633項目にも及び収録。B5判　800頁
特別定価26250円(10月末日まで)
通常定価29400円(税込)
●6月上旬発売〈予約募集中〉

東京堂出版　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-17
TEL03-3233-3741　http://www.tokyodoshuppan.com

歴史を知れば古典が、古典を知れば歴史が見えてくる！
豊かな世界を知るための水先案内人、登場。『内容案内』送呈
歴史と古典　全10冊　刊行開始
【企画編集委員】小峯和明　古橋信孝　川合康

古典と歴史の
双方向からの理解に最適
高校図書館必備！！

●第1回配本
古事記を読む
三浦佑之編　2940円
〈続刊〉万葉集／将門記／源氏物語／今昔物語集／平家物語／北野天神縁起／太平記／信長公記／仮名手本忠臣蔵



時代を超えて輝きを放つ数多くの「古典」。その歴史的背景や言葉の意味を理解するための格好のガイドブック。古典の世界に新しい可能性を切り拓く※毎月一冊ずつ刊行中

価格税込　東京都文京区本郷七―二―八
電話〇三―三八一三―九一五一　吉川弘文館

NO. 25
部落解放・人権図書目録
2008　A5判／126頁／頒価300円(税込)
●2007年11月までに刊行(予定も含む)されている書籍約1,120点を紹介。ISBNコード付。
項目
《部落問題》総記・事典／現状／運動／教育／行政／歴史／文化・思想
《人権》基本的人権／人権一般／性差別／他
部落解放・人権関係雑誌一覧
書名索引・著者索引・掲載出版社名簿
●書店様にてご注文ください。

部落解放・人権図書目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL 03-3266-9521

エンツェンスベルガー[著]　ベルナー[絵]　丘沢静也[訳]
普及版
数の悪魔
算数・数学が楽しくなる12夜



旅するセールスマンの問題
1や0のマジック
ウサギのつがいの秘密
パスカルの三角形　などなど

教育誌で話題！
親子で読める数学本
A5判並製 258頁 ●1680円(税込)

晶文社　〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03-3255-4501
http://www.shobunsha.co.jp/